

生物化学技術基礎 (Biochemistry Foundation)		1年・前期・2単位・選択必修 機械制御，電子情報工学専攻 担当 石丸 裕士	
〔準学士過程（本科1-5年） 学習教育目標〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-1（100%）	〔JABEE 基準〕 (d-2a) , (d-2c)	
<p>〔講義の目的〕</p> <p>生物化学に関する事柄やその技術に関して、近年、メディアで取り扱われることが多くなり、専門家でなくとも、生物化学に関する最低限の知識が要求されてきている。</p> <p>そこで、本講義では、生命科学に関わる基礎的な物質の構造と機能、それを調べる基礎的な技術などについて学び、メディアで頻繁に登場する生物化学に関する事柄について説明できるようになることを目的とする。</p>			
<p>〔講義の概要〕</p> <p>生物化学で取り扱う生命現象は、タンパク質によって駆動される化学反応である。そこで、まず、化学と生物の関わりについて説明する。次に、頻繁にメディアに登場する生物化学に関する事柄の意味や意義を理解するのに必要な知識、実験法などについて教授する。</p>			
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>専門とは異なる分野なので、講義前の予習は必要としないよう工夫して講義を進める。</p> <p>ただし、講義中に講義内容に関する課題を出題する。講義中に演習の機会も設けるが、完成しなかった場合は各自で課題に取り組み、指定された期限までに必ず提出すること。なお、試験問題は提出課題の類題とする。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．生物と化学を関連づけて説明するのに必要な化学の基礎知識を身につける。 2．生体分子の研究目的別に必要な機器について説明できるようになる。 3．微生物の種類や培養法について説明できるようになる。 4．エネルギーを得るしくみについて説明できるようになる。 5．遺伝子とタンパク質合成の関係を説明できるようになる。 6．免疫のしくみとアレルギーとの関係を説明できるようになる。 			
<p>〔評価方法〕</p> <p>授業中に配布する演習問題のレポート点（60%）と試験成績（40%）で総合的に評価する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>なし。（必要に応じて参照プリントや課題プリントを配布する。）</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>理系なら知っておきたい生物の基本ノート 山川喜輝著 中経出版 フォトサイエンス生物図録 数研出版編集部編 数研出版 はじめての生化学 平澤栄次著 化学同人</p>			
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>本科で履修した化学と関連がある。</p>			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	生物化学技術概観	講義概要などのガイダンスと既存知識のチェック	
第2週	化学概論 1	化学物質と生体分子の化学結合について学ぶ	
第3週	化学概論 2	化学平衡と酵素反応について学ぶ	
第4週	化学概論 3	生体分子の合成と単離について学ぶ	
第5週	機器分析法	研究目的別に使用すべき機器について学ぶ	
第6週	生体物質概論 1	生体分子の構造と役割について学ぶ	
第7週	生体物質概論 2	微生物の種類と応用法について学ぶ	
第8週	培養法	微生物の培養法について学ぶ	
第9週	代謝 1	呼吸とエネルギーとの関係について学ぶ	
第10週	代謝 2	生体分子の分解について学ぶ	
第11週	遺伝子 1	遺伝子の構造と復元について学ぶ	
第12週	遺伝子 2	タンパク質合成について学ぶ	
第13週	免疫 1	免疫のしくみについて学ぶ	
第14週	免疫 2	抗体とアレルギーについて学ぶ	
第15週	まとめ	以上の内容について総括する	
前期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)